

審議会等の会議の記録

会 議 の 名 称	第 1 回 伊勢崎市健康づくり推進協議会
開 催 日 時	令和 8 年 7 月 7 日 (火) 1 3 時 3 0 分～1 4 時 1 5 分
開 催 場 所	伊勢崎市役所東館 3 階 災害対策室
出 席 者 氏 名	委員：1 0 名（1 3 名中 1 0 名出席で会議成立） 高橋委員、羽鳥委員、岡部委員、篠崎委員、塩生委員、 阿久津委員、亀井委員、須永委員、定方委員、下城委員 事務局：1 3 名 中野部長、加藤副部長、村越課長、神保所長、堀越技監、 新井技監、築瀬課長補佐、阿藤課長補佐、渋谷所長補佐、 須永係長、吉田係長、大川係長、神澤係長
傍 聴 人 数	0 名
会 議 の 議 題	1．開会 2．会長あいさつ 3．委員自己紹介 4．事務局職員紹介 5．議事 （1）令和 7 年度事業実績報告 （2）令和 8 年度事業計画説明 （3）その他 6．閉会
会 議 資 料 の 内 容	令和 7 年度保健事業実績 （令和 7 年度保健事業実績、令和 8 年度保健事業計画）

会議における
議事の経過
及び発言の要旨

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 委員自己紹介
4. 事務局職員紹介
5. 議事
 - (1) 令和7年度事業実績報告
 - (2) 令和8年度事業計画説明について

事務局

資料「令和7年度保健事業実績」に沿って説明

【質疑】

委員

虐待の予防について、相談事業や支援体制は実施されているとのことだが、現場ではその支援が十分に行き届いていると感じているのか、それとも課題があると認識しているのか聞きたい。

また、貧困家庭や外国人世帯など、支援が届きにくいと考えられる人への対応について、現場ではどのような実感を持っているのか、課題や改善が必要と考えている点があれば、現場の声も含めて聞きたい。

事務局

母子保健事業として、妊娠期では母子健康手帳交付時と妊娠中の面談、出生後には妊婦のための支援給付金申請時の面談の中で必要な相談支援を行っている。その他、希望に応じて窓口健康相談や乳幼児健診など、相談を受ける機会を設けている。そうした中で、貧困や経済的な支援についての相談を聞くこともある。貧困や外国人の方の相談は、一定数あるものの増加している印象はない。

委員

伊勢崎市は外国人が多いということで、いろいろな課題も抱えていると思う。引き続き対応いただきたい。

委員

14ページの歯周病検診の受診率について。令和7年度は2.7%と、今までで最も低い状況。歯科医師会としても、歯周病と全身疾患の重症化の予防についてアプローチしてきた。今年度は、健康まつりでも周知していく予定。歯周病は口の中の病気だけではなく全身疾患と関係があるということを、市からも周知していただきたい。

また、高齢になるに従って、全身疾患の発生率、重症化率が高くなっている。検診対象が20歳からと広がったこともあり、もう少し全身疾患に関係していることを歯科医師会とともに周知していただければと思っている。

事務局

歯周病は先生がおっしゃる通り、口の中だけではなく全身疾患に悪影響を与えるものと認識している。

保健センターでは、令和6年度より、20歳から10歳刻みで70歳まで

に対象を広げ、受診券を送付している。さらに、年度途中には40歳と60歳の方に対して、他の検診と併せて郵便はがきによる受診勧奨も行っている。その他、健康まつりや情報ステーションで、歯周病検診等チラシを配布している。出前講座も要望があれば引き続き対応していきたい。

委員

フレイルという言葉は十分浸透してきた。オーラルフレイルという言葉も入れていただくと良いと思う。

委員

51ページの令和8年度保健事業計画にある胃がん検診について。胃がん検診が2年に一度の隔年になった経緯について聞きたい。

事務局

胃がん検診のうち、胃カメラの検診が2年に1回となった経緯は、国のがん検診に関する指針に基づくもの。市町村のがん検診は、科学的根拠により死亡率低下の効果が認められた検診を多くの方に受診いただき、がんによる死亡者数を減らしていくことが大きな目的となっている。

国の指針により、胃がん検診は、受診の間隔が2年に1回と定められており、その指針通りに実施をしていくために、医師会や関係機関の方々と協議し、今年度より、指針に沿った検診体制を整えた。

委員

乳幼児健康診査について。健診会場が1会場となり、各健診日数が月4回から3回になったが、受診率は下がりず安堵している。しかし、健診を担当する医師としては、他の市町村に比べて1回の健診で診る乳幼児の数が増えている。開業医で、会場まで遠い先生もおり、往復の時間を考えると、1回の対象者数をもう少し減らして、健診の日数をふやしていただけた方がありがたいと思う。全国的に1回の健診受診者が平均25名ぐらいだが、伊勢崎市では多い時で1回に40名以上診るときがある。そうすると、午後の診療に影響がでるなど、しわ寄せがきているので検討いただきたい。

事務局

受診者の人数については、少子化も進んできていて、26ページの4か月児健康診査の受診者数を見ると、令和5年度の対象者が1,410人に対し、令和7年度は1,363人と徐々に減ってきている状況。安心して安全に健診を受けていただくためには、1回の健診人数の調整も大事なことを考えているが、このような推移を見ながら、今後の実施に向けて、どんな風な工夫ができるのか検討していきたい。

委員

日数が減ると受診をする方の日程に制約が出るという、双方にとっていろんな課題もあると思う。ただ、ここに至った経緯というのもあると思うので、もう一度検討いただきたい。

	委員 10ページ、11ページ、令和7年度の報告のがん検診の受診率について。どのがん検診受診率もかなり低い数字である。今に始まったことではないが、市町村のがん検診受診率には、職場の検診や人間ドックを受けている人の数は含まれていない。国民生活基礎調査では、職場での検診も含めた受診率が公表されており、受診率も増加傾向である。 これらを踏まえ、令和7年6月に厚生労働省から出ている、がん検診情報の一体的な把握についての資料を見ると、市町村においても職場等で検診を受けている人の数を把握する工夫をするよう記載がある。一部の市町村では、電子申請フォームなどを活用しての実態把握や自治体システムの標準化などを推進している。伊勢崎市として、今後、取り組んでいく予定はあるのか。 事務局 がん検診の受診状況の実態把握については、具体的にはこれからの検討となっている。他市町村の状況なども収集し、実施に向けて考えている。保健福祉事務所で伊勢崎地区の職域連絡協議会を開催されているので、そういう場もお借りしながら検討を進めていきたい。 委員 個人情報の把握はなかなか厳しくなっているが、検討いただきたい。 (3) その他 なし 6. 閉会
--	--